

夕日とうんまかもん、 焼酎飲んでよか晩を

東シナ海に沈む夕日を見ながら、長島特産の海の幸、山の幸を堪能し、焼酎を楽しむ「長島焼酎祭り“よいまい”」が10月20日、サンセット長島前の駐車場で初めて開催されました。

今回の祭り“よいまい”とは、長島の言葉で「集まらないといけないよ」という意味と、ほどよく酔って、楽しく心も舞うようなお祭り（酔い舞）となるよう企画されました。

会場には、町内外から約1100人が来場。準備された特産の焼酎“さつま島美人”など5つの銘柄と特製カクテルが準備され、思い思いに堪能していました。このほか、つまみには、町の加工グループが手がけた魚の干物やながしまコロッケ、獅子島からは今朝水揚げされたばかりの魚を串に刺し、炭火でじっくり焼く「獅子島グリル」などの出店が立ち並びました。同祭り実行委員長の飯尾明

彦さんは「昭和42年2月から長島島内にあった5つの蔵元の焼酎をブレンドした“さつま島美人”が販売され、今では長島はもちろんのこと鹿児島でも代表的な銘柄となっている。今日は天気も良く夕日もきれいに見えるロケーションで焼酎を愛し、大いに楽しんでもらいたい」とあいさつをしました。

開会宣言で川添健町長は「初めての試みで実施したところ、女性のお客さんもたくさん来場してくれてうれしい」とあいさつ。その後「乾杯」と声たかだからに音頭をとりました。

祭りでは、阿久根市の鹿児島毘沙門太鼓響流の和太鼓演奏のオープニングが始まり、もち投げや町内の芸達者なかたによる歌と踊りのステージ、出水市で活動する生バンドグループのミルクースマイルズによる芸能イベントが行われました。時間が経つにつれ酔いが回りはじめる

と、観客席の来場者が次々に立ち上がり、曲にあわせ踊りが始まるなど大盛況となりました。焼酎銘柄当てクイズでは、5種類の利き酒を飲み比べ、正解者には抽選で、その銘柄がプレゼントされました。

このほか、わが家の記念焼酎と幻の焼酎コンテストでは、自慢の焼酎が展示され、今では見ることができない“幻のさつま島美人”も登場しました。

イベントの楽しみ、大抽選会では、テレビや焼酎、デジタルカメラなどの豪華商品も準備され、当たった来場者は大喜びで受け取っていました。

阿久根市から来た猿楽善次さんは「長島の風景と道の駅が大好きでちよくちよく足を運んでいる。今日は焼酎の力を借りて、長島町民とのふれあいのできたらうれしい」と笑顔で話しました。